

💡特に良いと思う点

- **作業種類の多様さに加えて余暇活動にも力を入れ、利用者の活動範囲の幅が広がり充実した生活が送れるように支援しています**
事業所内の作業の充実とともに、余暇活動にも力を入れています。週3回希望者が参加できる夕方支援プログラムでは、ボーリング、カラオケ、スーパー銭湯、プール等のプログラムがあり、作業終了後の利用者の生活が充実したものになるように取り組んでいます。月2回行う音楽教室では音楽練習だけではなく身体を動かすリズム体操も取り入れ、運動プログラムでは個別シートで目標を設定し、支援者と共通理解のもと健康管理も兼ねて実施しています。余暇活動に参加する利用者も増え、事業所の活動として定着しています。
- **利用者の意向により、法人内の他事業所と連携し、就労のステップアップを支援しています**
当事業所は多様なニーズをもつ利用者を受け入れ、利用者一人ひとりのニーズに沿って支援しています。就労ニーズがある利用者は法人内の他事業所(就労継続支援B型)の作業に参加できる交流システムを設け、毎日数名がその事業所の作業に参加し経験を積んでいます。この事業所では訓練事業を行っており、一般就労を希望する人には実習も用意しているため、利用者は参加できます。昨年は当事業所から2名がこの事業所に移る実績があります。このような多様な事業所をもつ法人の強みを活かしながら、就労ニーズがある利用者の支援を行っています。
- **地域の福祉支援関係者や地元商店会及び各種学校と、交流や連携を積極的に行っています**
地域の福祉関係団体や地元の商店会との交流を職員は深め、行事やイベントに参加することで事業所の認知度を高めています。それ以外にも、事業所では地元の中学・高校や大学及び特別支援学校との連携を推進し、学生の職場体験や将来の利用者候補が実習をする機会を定期的に設け、職員や利用者で交流する場を作っています。また、市内の事業所が集う会に参加して、地域ネットワーク内の協働にも努めています。これらの取り組みを通じて、地域における協力関係を築き、地域社会と触れ合う機会を多く持てるようにしています。

✔さらなる改善が望まれる点

- **ケース記録を通じてみえる利用者の変化や課題を時系列で確認でき、個別支援計画の見直しに活かす仕組み作りが期待されます**
毎日記入するケース記録に個別支援計画を添付し、職員が日々の支援で個別支援計画を意識するようにしています。ケース記録には利用者の日々の様子、変化や課題などが記載されており、この記録は個別支援計画の見直しの重要な資料となっています。ケース記録からみえる利用者の変化・課題で意識する点を個別支援計画の支援内容毎に抽出し、期間を定め時系列で文字に落とし込んでいくことでケース記録と計画の見直しの関連性が見えてきます。職員の支援の意識度の高まりも期待でき、計画の達成度評価へと繋がることを期待します。
- **事業計画や職員個別育成計画は管理者が作成していますが、今後は職員が主体となって計画を作成することが期待されます**
事業所では勤務年数の短い職員が多いことから、年度事業計画や職員個別育成計画の作成をする際は、管理者が主体となって計画を立てています。管理者は職員との個別面談を通じて、本人の課題や目標への具体的な取り組み方法を明確にし共有するとともに、本人の意見を反映した計画を作成することを認識しています。管理者としては、今後職員が事業計画や自分自身の育成計画に関して、主体性を発揮し、進捗状況の確認や実行ができることを求めています。職員が主体性を持つことで、モチベーションの向上や遣り甲斐を持つことにも期待されます。
- **業務標準化の見直しについて、利用者支援や事業所サービスの向上を目指し、継続した取り組みが期待されます**
法人の「施設管理業務マニュアル」を用いることで、各種マニュアルが整備されてきており、事業所では業務や支援の標準化が図られています。支援現場での課題は職員会議、ミーティングを通じて話し合い、実践を下にした事業の標準化について、見直しを行っています。現状では事業所全体のこの取り組みについて、職員に未だ浸透していない傾向が職員調査から見受けられます。そのため、実践を通じての取り組みを継続しつつ、経営層と職員の意識の差を埋めていく視点が必要だと考えられます。今後の継続した取り組みに期待されます。